

20年のあゆみ

写真で20年の活動を振り返ります。



車いす市民全国集会に参加 (1995年10月)



YMCAフィランソロピー協会発足 (1995年10月)



初めてのチャリティ駅伝大会 (1996年11月)



重油回収作業ボランティア派遣 (福井) (1997年2~3月)



チャリティポロ大会がスタート (2003年6月)



菊水学園招待キャンプ (2003年7月)



熊本県フィランソロピーフォーラム2004 (2004年2月)



10周年記念堀田力氏講演会 (2006年10月)



企業交流会がスタート (2008年5月)



留学生との交流会で企業見学 (2009年1月)



15周年記念パーティー (2010年10月)



「日本一幸せな従業員をつくる」上映会 (2014年8月)

喉も気分も爽快！ 企業交流会 on ビール列車

7月31日(金)、第8回企業交流会がJR九州とのコラボレーションにより「ビール列車」で開催されました。3両編成のうち1両をYMCAフィランソロピー協会で貸切運行。15企業・団体の39名が参加しました。

1週間の仕事を終えた企業人が熊本駅に集合。八代行の列車に乗車し、ビールと会話を存分に堪能し

ました。車両内では、各企業の社名や商品にちなんだ〇×クイズにジェスチャーで回答する企画があり、枝豆やチーズなどの“おつまみ”をかけて盛り上がりました。

「ブルームーン」のこの日、車窓の景色も楽しみながら喉を潤し、業種や立場の枠を超えて企業間の交流が深められました。



会員企業・団体 (33社 2015年10月現在)

(株)愛育会福田病院	近畿日本ツーリスト(株)	(株)熊本日日新聞社	西日本電材(株)
(株)エフエム熊本	(株)近代経営	(株)熊本放送	(株)肥後銀行
(株)紙弘	熊本朝日放送(株)	熊本ヤクルト(株)	日立キャピタルオートリース九州支店
亀井通産(株)	(株)熊本銀行	コカ・コーラウエストベンディング(株)	富士ゼロックス熊本(株)
(株)亀井ランチ	(株)熊本県民テレビ	(株)城野印刷所	(有)ゆうしん
九州産業交通ホールディングス(株)	(株)熊本製綿所	(株)スーブル	リコージャパン(株)熊本支社
九州電力(株)熊本支社	熊本第一信用金庫	中央印刷紙工(株)	
九州旅客鉄道(株)熊本支社	熊本電気鉄道(株)	(株)テレビ熊本	
九州労働金庫熊本県支部	熊本トヨタ自動車(株)	東光石油(株)	

NEWS LETTER No.69

編集：YMCAフィランソロピー協会事務局
編集協力：(株)城野印刷所
2015年10月発行



YMCAフィランソロピー協会

〒860-8739 熊本市中央区新町1丁目3-8
TEL 096-353-6397
FAX 096-324-7877
E-mail ymca.philanthropy@gmail.com

皆さまからの情報をお待ちしています。
○各企業のボランティアへの取り組み
○私のボランティア活動
○フィランソロピー協会への提案・質問(問合せ)など
左記の事務局まで、郵送またはFAX・E-mailにてお寄せください。

フィランソロピーとは
ギリシャ語の「人間愛」という言葉からきており、人間愛にあふれる社会を目指す、企業の社会貢献活動を表す言葉として使われています。



この印刷物は再生紙を使用しています。



設立20周年記念交流キャンプ



YMCAフィランソロピー協会は「企業と人の社会貢献」を掲げ活動し、今年設立20周年を迎えました。これを記念し、親元を離れて生活を送る児童養護施設菊水学園の子どもたちを招待してキャンプを開催しました。

YMCAフィランソロピー協会は設立20周年を迎えました

設立20周年記念交流キャンプ 児童養護施設菊水学園の子どもたちと過ごした2日間

9月5日(土)～6日(日)、児童養護施設菊水学園の子どもたちとの「交流キャンプ」がYMCA阿蘇キャンプを拠点に開催されました。

児童養護施設の招待キャンプは13回目。今回は設立20周年を記念した初めての宿泊キャンプで、熊本銀行ふるさと振興基金の助成金と6月に開催された

チャリティボウリング大会の益金をもとに、菊水学園の児童25名と職員5名を招待しました。

子どもたちは初日はカヌーやキャンプファイヤー、2日目に乗馬やピザ作り、思い出バッグ作りなど、様々なプログラムを体験。熊本銀行、肥後銀行、近代経営、熊本日日新聞社、熊本トヨタ自動車、リコー

ジャパンらの企業ボランティアや学生ボランティア(リーダー)が活動をサポートしました。

熊本銀行の田中薫さんは閉会式で、「これからも何事にも負けずにチャレンジしてください」とメッセージを贈り、子どもたちからもキャンプ開催に対しお礼の言葉が伝えられました。

参加した
子どもたちから
お礼の
メッセージ



交流キャンプ事前学習会 子どもたちの現状を知り、接し方を学ぶ

キャンプの開催にあたり、7月8日(水)、菊水学園の施設長である松本孝一郎さんより、事前に子どもたちとの接し方などについてお話いただきました。

児童養護施設では、親はいても家庭で面倒を見ることのできない子どもたちを預かっています。しかし、特別な子どもだとは思わないでください。以前は、家庭の経済的な理由で子どもたちを預かっていましたが、今は入所理由の約6割が家庭内での虐待とされ、その数は年々増加しています。そのような環境で育った子どもたちは大人を信用していません。親に裏切られたというダメージが強く、地域の人や学校の先生といった周囲の大人も信用できなくなってしまっています。

虐待を受けている子どもたちは、地域の人からの通告を受けた児童相談所などを通して入所してきます。地域の人からの通告が子どもの命を守っています。しかし、入所できない子どもは家庭に戻らざるをえないのが現状です。そういう意味で施設の子供たちが特別ではないとお話しをしたのです。ぜひ皆さんの地域の中に、身近に存在しているかもしれないこのような子どもたちを見守ってほしいと思います。

虐待を受けた子どものうち、半数は小学校に入学するまでの子どもたちです。1年生くらいの頃から精神的、身体的な虐待を受け、強いトラウマを背負っていることとなります。その結果、無意識に大人を挑発し、イライラさせる行動をとったりします。また、自己評価が低く、褒めても受け入れてくれません。ご飯を食べさせてもらえず、叩かれても、本来子どもはお父さん、お母さんが大好きです。大好きな親から虐待されるのは、自分が悪いからだと思えるようになってしまう子どもを見ていると心が痛みます。

虐待のトラウマの強い小さな子どもの中には、大人に懐く子がいます。しかし、どんどん要求が高くなり、期待に応えない大人とは関係性をスパッと切ってしまうことがあるため、子どもとの距離を保って接することが大切になります。一方、なかなか近寄らない子どもは、甘え方を知らないだけなのです。ぜひ、声をかけてあげてください。キャンプでは、会話のキャッチボールから始めてもらえば良いと思います。そして、何か一つでも自分で考えてやり遂げたことがあれば、ぜひ褒めてあげてください。環境が人を変えると云います。自然に囲まれて、自分でやったと自信が持てるような経験になることを願っています。



開会式で企業ボランティアと対面



キャンプ場周辺を散策し記念撮影



甘酸っぱいブルーベリー摘み



熱心にレクチャーを受ける子どもたち



初めてのカヌー体験



スイカ割りで大盛り上がり



緊急開催!スイカの種飛ばし大会



活動後のバーベキューは格別



緊張しながらもなかなかの手綱さばき



馬のブラッシングも体験



思い思いにピザのトッピング



オリジナルピザの窯焼きにも挑戦



歌って踊ったキャンプファイヤー



思い出のエコバッグ作り



子どもたちに向けたメッセージ

参加者の声



熊本銀行
田中 薫さん

今回は1泊2日のキャンプで子どもたち一人ひとりが様々な体験ができたと思います。自分の力でカヌーを動かしたり、動物と意思疎通したりすることそれぞれに意味があるとキャンプを通して知りました。このような場を提供することも、私たち大人の役目なのだと感じました。



肥後銀行
竹本 多美恵さん

積極的で一生懸命、純粋で何にでも優しい子どもたちの姿を見ていると、厳しい環境で育っていると感じません。先生方が子どもたちどのように接しているのかを知り、子ども自身ができることはそれぞれに任せられていて、見守ることの大切さも教えられました。



肥後銀行
里野 愛美さん

昨年、初めて交流キャンプに参加し、また子どもたちに会いたいと今年も参加しました。今回はプログラムが盛りだくさんで、子どもたちのあふれるパワーを感じました。楽しい思い出として記憶にとどめてほしいですね。同僚にも子どもたちの様子を知らせたいと思います。



近代経営
寺崎 拓さん

カヌーや乗馬、キャンプファイヤーなど、今までにない体験もあり、良い思い出になったと思います。何度も訪れている場所なのに新しい発見も多く、子どもたちと一緒に思いぎり楽しむことができました。以前参加した子が私のことを覚えてくれたのもうれしかったですね。



菊水学園職員
吉田 勝さん

子どもたちはキャンプを楽しみにしていました。自然の中で遊ぶことでパワーも増し、人見知りする子も大きな声で話をしていました。ボランティアの皆さんが楽しい雰囲気をつくってくれ、様々な体験を通して信頼関係が築けたようです。園内ではできない体験に感謝しています。

参加した子どもたちの声

キャンプで一番おもしろかったのがカヌーです。最初は怖くて不安だったけど、オールを持ち方や動かし方を教えてくれて、最後には上手に漕ぐことができました。またカヌーに乗りたかったです。バーベキューやごはんも全部おいしく、たくさん食べました。大人の人たちとも一緒に遊ぶことができ、楽しかったです。

小学6年生 男子

阿蘇キャンプに泊ると聞いて、クマが出てきたらどうしようと思っていましたが、リーダーと一緒にいたので怖くありませんでした。一番楽しかったのは乗馬です。途中で手綱のさばき方が分からなくなりましたが、前の人をまねしたらちゃんと進んでくれました。馬は大きくて、目がかわいい。また乗馬をしたいです。

小学6年生 女子